新連載！

『週刊ポスト』2017・8/18発売号

名曲カルテ

昭和歌謡といつまでも

堀井六郎
絵・松本 浦

第3回 青春歌謡を彩った「女性コーラス」

舟木一夫の学園ソング三部作『高校三年生』『修学旅行』『学園広場』の3曲に共通して言えるのは、前奏・間奏で聞かれる女性コーラスが、私たちを一気に学園生活へとタイムスリップさせてくれる働きをしてくれていることです。

『週刊ポスト』読者による「青春の一曲」アンケート第一位に輝いた『高校三年生』をあらためて検証してみると、歌手・歌詞・曲だけでなく、すばらしい編曲にも恵まれた四拍子揃った名曲だったことがわかります。

編曲担当の福田正は、それ以前に美空ひばりの『花笠道中』『車屋さん』などの編曲でも知られていますが、青春歌謡での功績は計り知れません。

アンケートではベスト10から漏れた青春歌謡の傑作『いつでも夢を』は、昭和37年9月に発売されましたが、半世紀以上経過した現在でも、前奏を耳にするやいなや、前期高齢者世代を若やいだ気分にさせてくれるのは、『高校三年生』同様、この女性コーラスが大きな役割を果たしてくれています（作編曲・吉田正）。

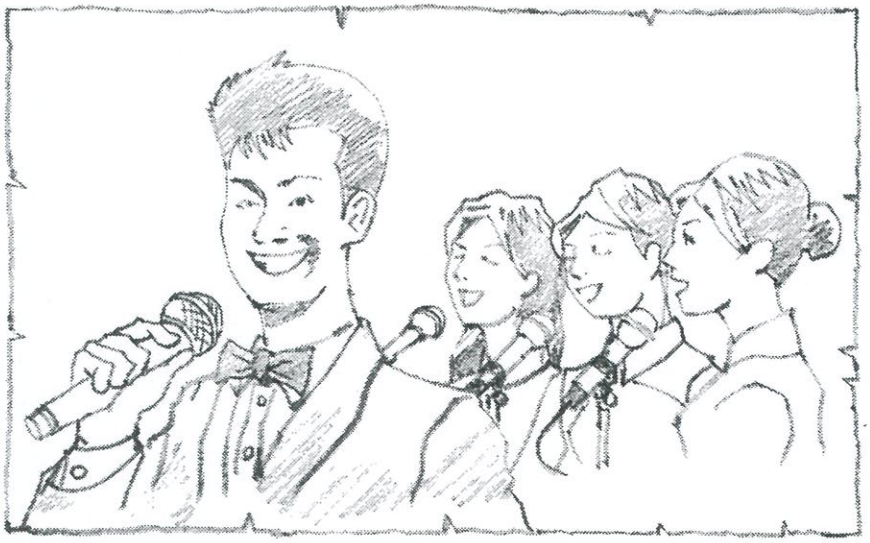
『高校三年生』が『いつでも夢を』発売の5か月後に録音されたことを考えると、『高校～』の編曲を担当した福田正の意識は当然『いつでも夢を』にあやかる大ヒットにあったとしても不思議ではないでしょう。

『いつでも夢を』以前にも、明るい青春ソングに女性コーラスが使用されてヒットしたケースには初代コロムビア・ローズの『東京のバスガール』（昭和32年、作詞・丘灯至夫、作曲上原げんと）などがありましたが、やはり、決定打は昭和38年6月から10月までの間に発売された、舟木の学園ソング三部作だと思います。

三田明のデビュー曲『美しい十代』は舟木に遅れること5か月、同年11月にビクターから発売されていますが、『高校三年生』同様、前奏に女性コーラスが使用されていることもあって、歌の出だしから『高校三年生』に変えて歌ってみても大丈夫です。その反対に『高校三年生』の前奏のあとに『美しい十代』を歌い出すこともできます。どちらも「同じ時代が生んだ名曲」ということですね。

女性コーラス以外にも青春歌謡たらしめる要素はいくつかありますが、桑田佳祐が歌うNHKの朝ドラ『ひよっこ』の主題歌は、こうした要素を上手に取り入れています。

ほかにも、本筋とは関わりのないシーンで、寮母役だった和久井映見に鼻歌で番組の音楽担当・宮川彬良の父親が作曲した『恋のバカンス』を歌わせたりしていて、油断できない15分です。



ほりい・ろくろう　昭和27年東京都生まれ。慶應義塾大学文学部卒業後は25年にわたる出版社勤務を経て独立。現在は出版社経営の他、ライターとしても活躍。著書に『私的「昭和大衆歌謡考」』第1～3集（グスコー出版）がある